

# ‘星空舞’における ★ ★ 生育過剰となる水田での窒素施用法

地力窒素の供給量が多いことに起因すると考えられる生育過剰により、倒伏や食味値低下（玄米タンパク質含有率の上昇）が生じる水田において、窒素施肥法による問題解決を試みました。



生育過剰により倒伏・食味値が低下しやすいほ場では基肥窒素量を0~2kg/10aとし穂肥は葉色診断に応じた施用としましょう。

## 【倒伏が問題となるほ場】



基肥窒素量を2kg/10aとすることで、慣行施肥（3kg/10a）と同等の収量、食味値を得つつ、倒伏を軽減できます。

基肥窒素量を2kg/10aとしても倒伏程度が3以上となるようなほ場



倒伏が著しいほ場では基肥無施用としても、目標収量（500kg/10a）及び食味値（75以上）を確保しつつ倒伏を軽減できます。

## 【低食味値となりやすいほ場】

可給態窒素が30mg/100g程度あるほ場

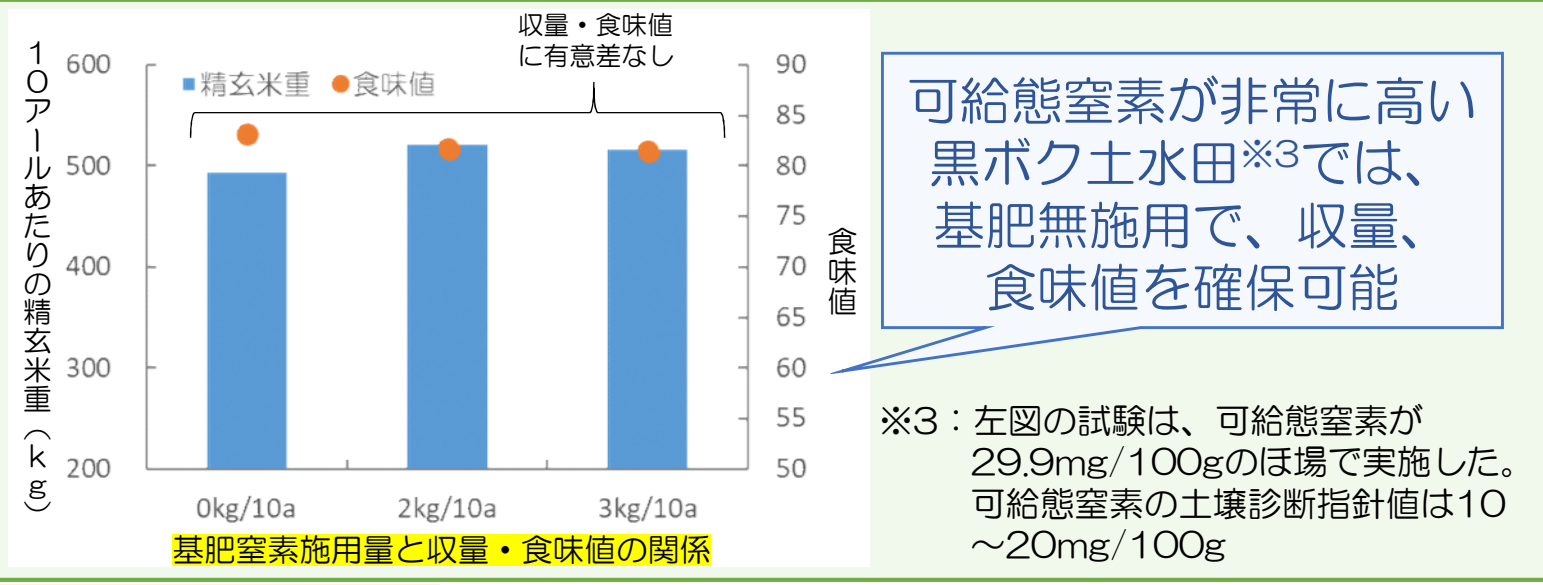
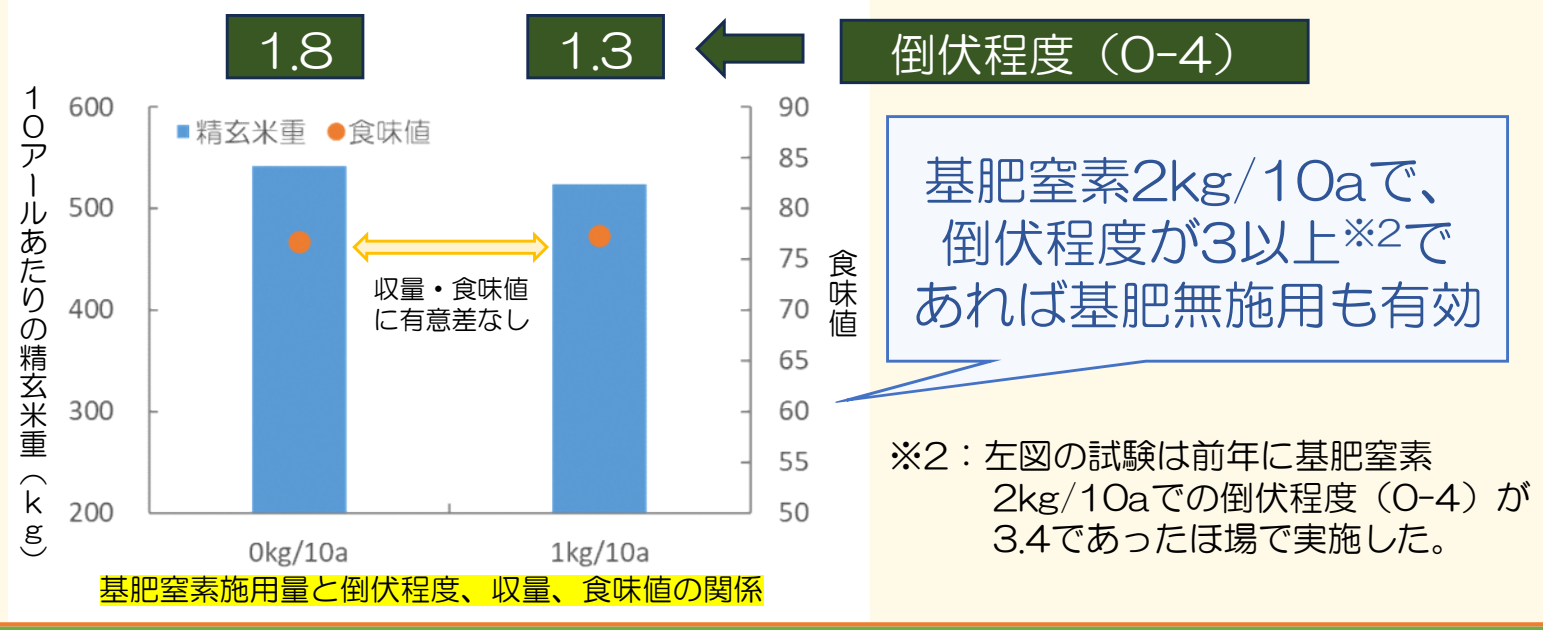
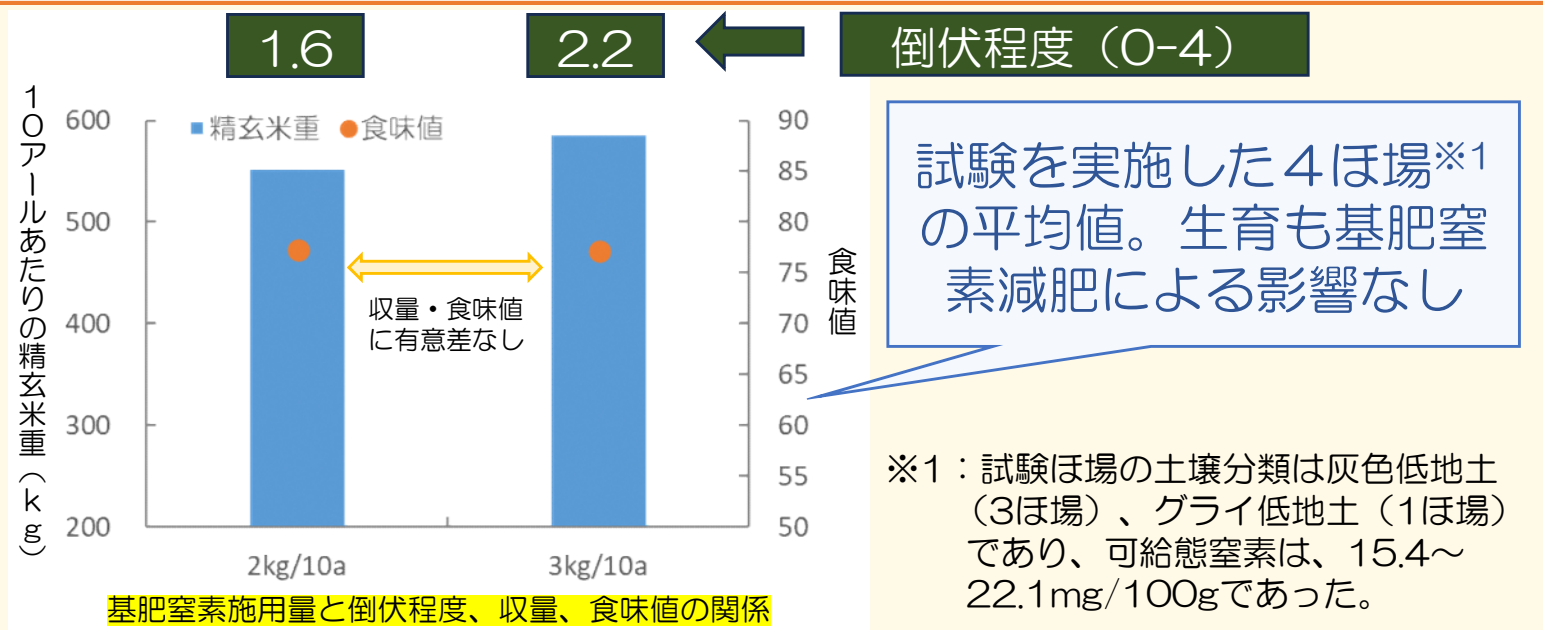


高地力な黒ボク水田では基肥無施用としても、基肥窒素3kg/10aと同等の収量、食味値となります。

### 【穂肥の葉色診断について】

穂肥Ⅰ時期（幼穂長8~10mm）の葉色がSPAD値35未満の時に2kg/10a施用、穂肥Ⅱ時期（穂肥Ⅰの8日後）の葉色がSPAD値32以下の時に2kg/10a、32~35の時に1kg/10a施用  
葉色の目安は「星空舞」栽培手帳をご覧ください。

# 【具体的データ】



- 利用上の留意点**
- 1) 基本的な栽培管理を徹底したうえで基肥窒素量の減肥を行う。
  - 2) 基肥窒素量の減肥は生育状況を確認しながら経年的に行う。